



おぐら
尾倉

<校訓>
自主
創造
協力



令和3年7月19日(月)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

「福岡県同和問題啓発強調月間」について

福岡県では、毎年7月を「同和問題啓発強調月間」とし、県民一人一人の人権意識の高揚を図るとともに、人権が尊重される社会の実現に向けて、本市をはじめ県内各地でさまざまな取組を行っています。また、学校においては、いじめの問題、同和問題等の様々な人権課題の解決において、人権教育の果たす役割の重要性を自覚し、道徳の時間や学級活動の時間はもちろん、全教育課程の中で人権教育の推進に取り組むよう努力をしています。

ただ、生徒には難しい内容もありますので、学年や発達段階に応じた指導をしていきます。端的に言えば、「自分や家族を大切に」「人の嫌がることは絶対に言わない、しない」「友だちや家族には思いやりの気持ちをもって、優しく接する」「友だちの良さを認める」「みんな違って、みんないい」などです。これからも、上記に挙げたように教育課程の中に加えて、機会を見つけて話をしていきたいと考えています。

以前紹介したように、尾倉中学校はSDGs教育推進校、オリンピック・パラリンピック教育推進校に指定されています。その視点からも、幅広い人権教育を推進しようと思います。

○ 学校における人権教育の取組の視点

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるために必要な人権感覚は、生徒に繰り返し言葉で説明するだけで身に付くものではありません。このような人権感覚を身に付けるためには、学級をはじめ学校生活全体の中や家庭で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを生徒自身が実感できるような状況を生み出すことが必要です。個々の生徒が、自らについて一人の人間として大切にされているという実感をもつことができるときに、自己や他者を尊重しようとする感覚や意志が芽生え、育つことが容易になるからです。

とりわけ、教職員同士、生徒同士、教職員と生徒等の間の人間関係や、学校・教室の全体としての雰囲気、家庭や地域での話などは、学校教育における人権教育の基盤をなすものであり、この基盤づくりは、教職員一人一人の意識と地域・家庭との連携により、取り組めるものでもあります。

このようなことから、自分と他の人の大切さが認められるような環境をつくるのが、まず学

令和二年度
人権週間
思い込み
心のフィルター
取り除こう

校・学級の中で取り組まなければならない。また、それだけではなく、家庭、地域等のあらゆる場においてもそのような環境をつくる必要があることを、生徒が気付くことができるように指導することも重要だと考えます。

さらに、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるということが、態度や行動にまで現れるようにすることが必要です。すなわち、他の人とともによりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重し、義務や責任を果たす態度、具体的な人権問題に直面してそれを解決しようとする実践的な行動力などを、生徒が身に付けられるようにすることが大切です。具体的には、各学校において、教育活動全体を通じて、例えば次のような力や技能などを総合的にバランスよく培うことが求められています。

- ① 他人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ちなどがわかるような想像力、共感的に理解する力
- ② 考えや気持ちを適切かつ豊かに表現し、また、的確に理解することができるような、伝え合い、わかり合うためのコミュニケーションの能力やそのための技能
- ③ 自分の要求を一方向的に主張するのではなく、建設的な手法により他人との人間関係を調整する能力及び自他の要求を共に満たせる解決方法を見いだしてそれを実現させる能力やそのための技能

これらの力や技能を着実に培い、生徒の人権感覚を健全に育てていくために、「学習活動づくり」や「人間関係づくり」と「環境づくり」とが一体となった、学校全体としての取組を推進する努力を続けていきたいと思っています。(参考:文部科学省HP)

【参考】隠れたカリキュラム

生徒の人権感覚の育成には、体系的に整備された正規の教育課程と並び、いわゆる「隠れたカリキュラム」が重要であるとの指摘があります。「隠れたカリキュラム」とは、教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で、生徒自らが学びとっていく全ての事柄を指すものであり、学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものです。

例えば、「いじめ」を許さない態度を身に付けるためには、「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分です。実際に、「いじめ」を許さない雰囲気が浸透する学校・学級で生活することを通じて、生徒ははじめて「いじめ」を許さない人権感覚を身に付けることができるのです。だからこそ、教職員一体となつての組織づくり、場の雰囲気づくりが重要であると考え、そのような学級、学校づくりを目指していきたいと思

令和二年度
人権週間
「ごめんね」を
素直に言える
君が好き

令和二年度
人権週間
拡散は
差別じゃなくて
優しさを